

## 平成30年度家庭教育応援プロジェクト 第2回地域家庭教育推進県中ブロック会議

□ 日 時

平成31年1月18日(金)  
13:30～16:10

□ 会 場

郡山合同庁舎 第1会議室



福島県教育委員会では、「本県の家庭教育推進上の大きな課題である『親の学び』を支援する」ことを目的として、平成26年度より「地域でつながる家庭教育応援事業」を実施しております。事業計画に「家庭教育応援プロジェクト」を位置付け、「福島県地域家庭教育推進協議会（年2回）」「地域家庭教育推進県中ブロック会議」「親子の学び応援講座」「家庭教育応援企業推進活動」「フォローアップ研修」を実施しています。

「地域家庭教育推進県中ブロック会議」は、「福島県地域家庭教育推進協議会（年2回）」「地域家庭教育推進県中ブロック会議」「親子の学び応援講座」「家庭教育応援企業推進活動」「フォローアップ研修」を実施しています。

「地域家庭教育推進県中ブロック会議」は、県内7地区において、各地域の現状を把握し、課題を整理した上で各支部PTA連合会との連携により、各家庭における実践へとつなげていくことをねらいとしております。学校・家庭・地域が連携し、家庭教育の推進、子どもたちの生活習慣の向上、課題解決に向けての実践的な活動がなされるよう、PTA、学校支援者、地域の子どもたちに関わっている諸団体、家庭教育支援者、企業の代表者等による「地域家庭教育推進ブロック会議」を開催しています。

今年度の第2回目となる本会議では、事務局より今年度の事業報告を行うとともに、県中域内のスクールソーシャルワーカーより「子どもたちをとりまく環境」という題で情報提供をいただきました。また、「県中域内の家庭教育推進上の課題」というテーマで協議を行い、推進委員それぞれの立場から見えてきた課題について意見交換を行いました。

### 【出席者】

- 県中ブロック会議アドバイザー（学識経験者）
- 家庭教育推進アドバイザー
- 家庭教育支援県中協議会会長
- 須賀川市家庭教育インストラクター
- 郡山青年会議所青少年育成委員会委員長
- 郡山市主任児童委員
- 須賀川市社会福祉協議会岩瀬支所長
- 県中児童相談所相談判定課副主任児童福祉司
- 田村市保健福祉部こども未来課主任主査兼子育て応援係長
- 岩瀬地区PTA連合会会長（須賀川市立阿武隈小学校PTA会長）
- 石川郡連合PTA会長（石川町立石川中学校PTA会長）

□ 日 程

時 間	内 容	
13:30～	開 会 行 事	○ 主催者あいさつ ○ 日程確認 ○ 諸連絡
13:40～	事 業 報 告	○ 本年度の事業報告
13:55～	情 報 提 供	○ 「子どもたちをとりまく環境」 スクールソーシャルワーカー 渡邊 好子
	休 憩	
14:55～	協 議	○ 「県中域内の家庭教育推進上の課題」 ・家庭や地域の現状 ・家庭教育推進上の課題 ・ブロック会議推進委員としての今年度の取組
16:05	閉 会 行 事	○ 御礼のことば ○ 諸連絡

## 事業報告

- 5月23日（木） 第1回福島県地域家庭教育推進協議会
  - 6月15日（金） 第1回地域家庭教育推進県中ブロック会議
  - 6月17日（日） 親子の学び応援講座 浮金小学校PTA親子ふれあいDAY  
“BALL GAME”体験会
  - 6月24日（日） 親子の学び応援講座 三春方部幼小中PTA連絡協議会交流会  
情報モラル・メディア講演会
  - 7月 1日（日） 家庭教育支援者全県研修
  - 8月 5日（日） 岩瀬・石川・田村地区PTA研究大会
  - 8月18日（土） 親子の学び応援講座 郡山市PTA連合会東ブロック勉強会  
情報モラル・メディア講演会
  - 10月19日（金） 地域家庭教育推進ブロック会議「情報交換会」
  - 11月28日（水） 郡山市PTA連合会研究大会
  - 1月16日（水） 地域でつながる家庭教育応援事業「フォローアップ研修」
  - 1月18日（金） 第2回地域家庭教育推進県中ブロック会議
  - 1月30日（水） 家庭教育応援企業 企業内学習会
  - 2月 4日（月） 第2回福島県地域家庭教育推進協議会
- ※ 企業と連携し、地域の家庭教育を推進することをねらいとして行われている「家庭教育応援企業推進活動」では、1月17日現在で今年度17件の新規登録があった。登録企業には、家庭教育に関する情報を今年度は5回発信した。
- ※ 親子の学び応援講座では、「BALL GAME 体験会」を1回、「情報モラル・メディア講演会」を2回実施した。親の学びの機会を提供することで、参加者が今



目的な課題について考えていくひとつのきっかけにすることができた。

※ 今年度も地区PTA連合研究大会の際に、第1回家庭教育推進県中ブロック会議で検討、改訂した「家庭教育応援プロジェクト（県中版）」を配付した。

## 情報提供

「子どもたちをとりまく環境」

スクールソーシャルワーカー 渡邊 好子

### 1 スクールソーシャルワークの活動

#### (1) スクールソーシャルワークとは

学校だけでは解決できにくい生徒指導上の課題に対して、関係機関と連携を図りながら、児童生徒や保護者の生活等に目を向け、その環境改善に向けた支援を実践していくために、教育現場に福祉の視点を取り入れて活動

#### (2) スクールソーシャルワーカー（SSWr）の活動とまなざし

児童虐待・子どもの貧困・不登校・暴力行為や非行・自殺・いじめ等に対して、スクールカウンセラーと共に教育相談体制の両輪として、学びの場のセーフティネットとなつて機能

#### (3) スクールソーシャルワーカー（SSWr）の具体的な支援

直接支援：児童生徒・家族への直接的な関わり

間接支援：学校や教職員を通じてのサポート

### 2 支援の概要とスクールソーシャルワーク（SSW）的な視点のポイント

#### (1) 支援の概要

情報収集 → ケース会議 → 情報共有 → アセスメント → 支援計画  
→ 次回の予定 → 支援の実際 → ケース会議 → 支援の評価・分析  
→ 再アセスメント → 支援計画 → 次回の予定 等

#### (2) 視点のポイント

##### ① 収集・共有する情報

経緯・現状、児童生徒に関すること、学校環境、家族環境、地域環境 等

##### ② アセスメントに加わる視点

発達障害の視点、虐待の視点、影響があるものと支援しにくいものを明確に

##### ③ 支援計画の視点

学校の支援の限界の設定

##### ④ 必要に応じた関係機関との連携

児童生徒の安全確保、安心できる居場所づくり、学校ができる家庭環境の調整・整備

##### ⑤ 実践上の留意点

教師も児童生徒を取り巻く環境のひとつ

##### ⑥ 支援の評価・分析の視点

支援した「人」「時間」「場面」「内容」が適切であったか

##### ⑦ 再アセスメントの留意点

事実から客観的にアセスメント

##### ⑧ 2回目以降の支援計画の視点

効果があった支援は継続

効果が見られなかった支援は中止又は修正



### 3 スクールソーシャルワーカーが見た子どもの現実

事例1：SSWrが最初に出会った小学生

事例2：家庭環境（障がいを持つ保護者等）

事例3：貧困

### 4 子どもの自尊感情－自己肯定感と自己有用感－を高めるために

《マズローの欲求5段階説～尊厳欲求の大切さ～》

- ・ 第一階層「生理的欲求」  
生きていくための基本的・本能的な欲求（食べたい、飲みたい、寝たいなど）
- ・ 第二階層「安全欲求」  
危機を回避したい、安全・安心な暮らしがしたい（雨風をしのぐ家・健康など）
- ・ 第三階層「社会的欲求（帰属欲求）」  
集団に属したり、仲間が欲しくなったりする
- ・ 第四階層「尊厳欲求（承認欲求）」  
他者から認められたい、尊敬されたい
- ・ 第五階層「自己実現欲求」  
自分の能力を引き出し創造的活動がしたいなど

<質疑>

- ・ SSWrが配置されていない市町村で、SSWrを配置するためにどのような手続きをとればよいのか。  
→ まずは市町村の担当課にSSWrの配置を要望する。市町村から県へ申請し、現在は、県から市町村への委託となる。市町村が予算化することも必要となってくる。

## 協 議

「県中域内の家庭教育推進上の課題」

議長：県中ブロック会議アドバイザー 滝田 良子 氏

【各推進委員より】

- 平成31年度に小学校区内に学校支援地域本部を立ち上げる予定である。今年度は、授業参観時に託児支援を行った。家庭を地域が支援する体制を整えていきたい。この地区から市全体に広がっていけばと願っている。公民館が窓口となり、公民館にボランティア団体のデータを集め、担当者が変わっても継続できるようにしていきたいと考える。
- 家庭教育インストラクターの高齢化、人材確保、人材育成が課題である。子育て支援と言われているが、親育ても大きな課題である。
- 家庭教育インストラクターとして、学校に出向いて就学児の保護者と面談を行っている。小学校入学時のみではなく、幼稚園入園や中学校入学に向けての資料作成を行っている。
- 地域支援として、小学生を対象としたキャンプや職業体験イベントを行った。平成31年度は、防災知識を高められるような内容を企画中である。
- 支援が必要だと思われる親への積極的な声かけを行ってきた。障がいのある児童に対しては、親への聞き取り、見守りなどのケアを行っている。
- スマホの問題、読書離れが課題であると考え。解決に向けて、次年度以降も継続してアクションを起こしていくべきである。
- 子どもを注意できない親、親への失望を感じている子どもがいる。親と子どもの間に入って橋渡しの立場になるケースもある。子どもは話し相手を欲しがっているので、よく話を聞くようにしている。



- 家のことを母親任せにしている家庭があり、母親の孤立が見られる。担当者として、メールでやり取りをすることもある。今後も児童相談所との連携を図っていきたい。
- 親同士の付き合いが希薄になっていると感じる。解決の手立てのひとつとして、肝試しを企画したが、親同士の盛り上がりが見られた。学区内で「家庭教育士の誓い」を作成しているが、親向けのものに内容を改訂している。
- 学校の統合が各市町村で進んでいる。少子化の中で、兄弟姉妹や 地域の子どもから学ぶ機会が少なくなった。PTAの東北大会で発表があった「弁当の日活動（子どもが自分で作る）」は親子のコミュニケーションを図るのに大変有効な方法の一つだと感じた。

#### 【まとめと確認事項】

- 今年度は、「コミュニケーション」をキーワードとして、以下の5つの取組に重点をおいて啓発を行った。
  - 取組1 「あいさつ」の輪をひろげよう
  - 取組2 「早寝早起き朝ごはん」国民運動
  - 取組3 親子で「スポーツ」
  - 取組4 我が家の「ノーメディアデー」
  - 取組5 「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」
- 今年度作成した「家庭教育とは・・・」の資料は、現在の社会的状況や保護者（親）への支援内容等が具体的にまとめられており分かりやすい。
- 推進委員から「県中域内の家庭教育推進上の課題」としての指摘事項
  - ・子育てと同時に親育てにも視点をあてる ・防災の知識と意識
  - ・インターネットやスマホに関わる問題 ・読書離れ ・親子のコミュニケーション
  - ・親の困り感への対応や支援 ・小学校、中学校の9年間を見通しての指導
  - ・子ども向けの資料と大人向けの資料の作成
  - ・弁当づくりを通しての親子のコミュニケーション など
- 次年度（平成31年度）のブロック会議の取組の方向性
 

平成31年度第1回福島県地域家庭教育推進協議会の内容を受けて、第1回地域家庭教育推進県中ブロック会議において、今日的な課題や地域の現状等を考慮して、県中ブロック会議としての取組について検討していく。その際、本日指摘された「県中域内の家庭教育推進上の課題」等も十分に参考にして焦点を絞って決定していく。

